

子どものしつけは「かりてきたねこ」でといわれます。「か」感情的にならない。「り」理由を話す。「て」手短に済ませる。「き」キャラクター（性格や人格）に触れない。「た」他人と比較しない。「ね」根に持たない。「こ」個別に伝える。人生訓ともいえそうな「かりてきたねこ」。自分のためにも覚えておきたいものですね。

## 知っどこ! 「税」のマメ知識

### 今月のマメ知識：【相続は総合的に判断する必要がある】

今回は夫婦と子どもが2人の4人家族だった場合の相続について考えてみましょう。夫婦の一方が亡くなり、残された配偶者と子どもが相続をしました。これを「1次相続」といいます。その後、残された配偶者も亡くなり、子どもが相続をしました。これを「2次相続」といいます。肝心なことは、1次相続での財産の分け方次第で、1次と2次の合計の相続税額が数百万円も変わってくる場合があるということです。例えば遺産が1億6000万円だったとして、次のパターンで計算してみました。(1) 1次相続：残された配偶者が8000万円・子が4000万円ずつ／2次相続：子が4000万円ずつ、(2) 1次相続：残された配偶者が全額の1億6000万円／2次相続：子が8000万円ずつ。それぞれの合計相続税額は(1) 1330万円、(2) 2140万円となり810万円の差が出ます。では(1)の方法が良いのかといえば、必ずしもそうとはいえ、遺産の内容や家族状況によってさまざまなので総合的に判断することが大切です。



税額は(1) 1330万円、(2) 2140万円となり810万円の差が出ます。では(1)の方法が良いのかといえば、必ずしもそうとはいえ、遺産の内容や家族状況によってさまざまなので総合的に判断することが大切です。

## 光を放つ 名言コラム

### 【人に自分の人生を判断される必要ない】

「人の評価なんて気にしないでいいんです。たまたま社会的にうまくいっている人に、自分の人生を判断される必要はないんです」。精神科医の藤野智哉氏の著書『あきらめると、うまくいく』にあった言葉です。人に「いい人だね」と言われても、それは相手の主観であって絶対的評価ではない。上司でも友達でも、うまくいっている人からほめられればうれしく、批判されれば残念に思う人は多そうです。努力が足りないと言われれば、落ち込むかもしれません。しかし相手の言葉が常に真実とは限りません。軽い気持ちで発した言葉かもしれないし、そもそも他人を客観的に評価することなどそんなに簡単にできることはありません。不確実な言葉で自分を上げたり下げたりしていたら体がもちません。著名な経営者やスター選手の言葉も個人の感想であり、結果論の部分もあるでしょう。そう思うと肩の力が抜けませんか？

## 主婦川柳 @ 奥さまの細道

ママは  
ままごとの  
ウーバー  
呼んでいる  
(昭和の頃は  
ずいぶん  
変わったわ)

洗濯物を室内干しするときは、新聞紙をクシヤクシヤに丸めてから広げたものを、洗濯物の下に敷くと乾きが早くなります。新聞紙には吸湿性があり、クシヤクシヤにすると表面積が増えるので吸湿率がアップして、さらに室内干しの気になる臭いも吸ってくれます。



## 才人の言葉

私には夢がある

アメリカの牧師であり公民権運動の指導者でもあるキング牧師の言葉。夢に大きいも小さいもない。各人の心の中に誰も立ち入ることのできない気高い夢がある。

## 振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

### 今月の商売のヒント：【二進も三進もご破算で】

「二進も三進も」と書いて「にっちもさっちも」と読みます。語源はそろばん用語で、二進（にしん）三進（さんしん）の音が変化して「にっち」「さっち」になったようです。二進とは $2 \div 2$ 、三進とは $3 \div 3$ のことで、どちらも割り切れる計算です。そこから転じて、2でも3でも割り切れないことを「二進も三進もいかない」というようになり、計算が合わないことを意味するようになったそうです。商売をしていれば二進も三進もいかない場面に出くわすことがあります。どう頑張っても行き詰って身動きがとれない、いわゆる逆境ですが、逆境は人間が試される場面でもありますね。思うようにならないときは身をかがめて力を蓄え、次に跳ぶ準備をしておく人。事を成すは逆境のときと捉え、ピンチをチャンスに変えるべく行動する人。どれが正解ということはありませんが、ひとつだけダメなパターンがあるとしたら、それは「何もしないこと」でしょう。「今は動かない」と決めて積極的に何もしない状態と、自分では何も選ばず何も決めず、ただ何もしない状態は、たとえばたから同じに見えても、実際はまったく別物です。特に世の中が目まぐるしく



変化している今のような時代には、何もしないことが一番のリスクになるといわれます。では動けないときはどうするか。その方法のひとつはリセットです。そろばんでは、次の計算に移るとき、先に置いたたまを全部払ってゼロにして、新しい計算ができる状態にすることを「ご破算（ごはさん）」といいます。二進も三進もいかないときは、今までの常識や経験をご破算して前に進む。そんな発想の転換が必要かもしれません。

## ナットク! 気になっていたあの言葉

### 今月の気になっていたあの言葉：【大阪・関西万博】

2025年に大阪で開催される日本国際博覧会の略称。4月13日から10月13日の日程で、会場は大阪市夢洲（ゆめしま）。約2800万人の来場者と約2兆円の経済波及効果を見込んでいる。誘致の遅れや費用増大など課題は多いが「空飛ぶクルマ」の実用化をはじめ、観光業や地域が活気づくチャンスとして期待されている。

## トナりの本棚

### 【限りある時間の使い方】

気鋭のライター、オリバー・パークマンのベストセラー。「あなたは自分の人生をまだリハーサルと捉えていないか？」という一節に、胸を突かれる一冊です。



元氣と氣づきを提供する  
東京都豊島区池袋の佐藤茂税理士事務所

豊島区池袋2-60-7 ルート池袋第3ビル4階

電話：03-3988-8820 FAX：03-3988-8824

<http://www.satousigeru.jp>